

2 学力向上支援

学力向上を図り、将来の田村市の発展を支える人材育成を目指して、さまざまな取り組みを行っています。

ミニマム授業スタイル

先生が授業を創る際に最も基本となるポイントをまとめ、授業の水準を保ち、授業力の向上に役立てています。

令和5年度田村市版ミニマム授業スタイル
田村市教育委員会

0 本時のねらいを子どもの姿で明確化する

- ・ねらいを達成した子どもの姿を具体的に言える。
- ・働かせたい見方・考え方を具体的に言える。

授業の展開

1 主体的な学びを創る

- ・本時のめあてや課題は、子どもの問いで創る

「なぜ？ どうして？ どっち？ どうすればいいの？ 正しいの？」などめあてや課題の最後は「？」

問いを引き出すためズレを生じさせる

- ・予想とのズレ
- ・感覚とのズレ
- ・既習事項とのズレ
- ・友達とのズレ
- ・生活経験とのズレ など

2 対話的な学びを創る

- ・対話は教師の発問で創る

キーワードは

- ・共有
- ・問い返し
- ・発想の源の顕在化

3 深い学びを創る

- ・深い学びは評価で見取る

- ・評価問題で！
- ・子ども自身のまとめで！
- ・子どもの思いや願い、問いを引き出して！

口共有させるための教師の働きかけの例

【予想】「〇さんの式の意味を説明できますか？」
【再生】「〇さんの説明をもう一度言えますか？」
【共有】「〇さんの考えを別の言い方でも言えますか？」
【発問】「〇さんの考えを簡単に言えますか？」
【共有】「〇さんの発問が分かりますか？」
【発見】「〇さんの考えのよいところはどこですか？」
【補助】「〇さんの考えのヒントが言えますか？」
「〇さんはどうしてそのように考えたのでしょうか？」

口考えを深めるための問い返しの例

【事実】「どういうことですか？」
【方法】「どのように考えたのですか？」
【理由】「どうしてそのようになるのですか？」

口発想・思考の源泉を顕在化させるための発問

「どうしてその考えが浮かんだのですか？」
「どうしてそのように考えたのですか？」 など

○評価問題で知識・技能と思考・判断・表現を評価する。できる子どもにはどんな問題も解かせる。
○子どものまとめで、思考・判断・表現を評価する。
・大切な考えをまとめよう。
・どのように考えたことがよかったのですか。
・間違えないポイントは？
○「次にやってみたいことは？」の発問で新たな問いを引き出し、次の思考活動につなげる。

○日常の授業でも、この視点を踏まえて授業を創ってください。
○本スタイルは、令和4年度の学力向上推進委員会及び計画訪問の反省、福島県教育委員会作成の「授業スタンダード」を参考にしました。

オートマスマティックスキャンプ

算数・数学を楽しく学ぶことで、物事を論理的に捉える力、問題を解決する力、想像力などを高め、学力の向上を図ることを目的に開催しています。



市共通テスト

学力向上推進委員が問題を作成し、全校実施と結果分析を行っています。市全体の課題を把握し、授業改善のポイントを見つけて共有し、児童・生徒の学力を向上させています。



教育最前線

夢を実現する力を育てる学校教育の今



市教育委員会は、教育振興推進プログラムを定め、学校教育の充実を図っています。特に国のGIGAスクール構想で、児童生徒1人1台のタブレット端末や電子黒板が配備され、子どもの学びのスタイルが変わりつつあります。教育振興推進プログラムに基づき、小中学校や市教育委員会が取り組んでいる学校教育の今を紹介します。

1 情報通信技術(ICT)教育の充実

タブレット端末や電子黒板を活用することで、これまでの学び方に変化が起きています。



電子黒板でプレゼンテーション

電子黒板に一人一人の考えを表示することで、思考を可視化したり、自分の考えを電子黒板上で操作しながらプレゼンテーションしたりするなど、学習のさまざまな場面で活用しています。

たむら市政だより 2024年3月号 —目次—

- 2 **特集** 教育振興推進プログラム
- 4 **特集** 東大で学ぼう
- 6 **特集** 特殊詐欺
- 8 **特集** challenger
「悔しさ」をバネに走り続ける
- 9 ほっとニュース
- 12 自殺対策強化月間
- 16 田村市の文化財「坂上田村麻呂③」
さかのうえのたむらまろ
- 18 暮らしの情報案内板
- 25 たむら支援学校だより
- 26 各施設の催しなど
- 28 ほけんだより

市の募集・申請に関する 各記事の共通事項

お問い合わせ 申込み先
市への申込・書類提出について明記していないものは、期間中の土・日・祝日を除く午前8時30分から午後5時15分まで

3 英語が使える人材育成

国際化する社会で活躍できる人材育成に取り組んでいます。

ALT(外国語指導助手)を活用した授業の充実

小中学校にALTを派遣し、小学3、4年の外国語活動、小学5、6年、中学校の外国語科(英語)の授業の充実を図っています。小学1、2年でも市独自に「英語に親しむ活動」でALTを活用。4年度から、幼稚園・こども園にも派遣しています。



サマーイングリッシュキャンプ

ALTと早稲田大学国際教養学部「セカクル」の学生を講師として、英語に親しみ国際理解を深める活動を行いました。セカクルが企画したアクティビティを通して、積極的に英語を使って話そうとする姿が見られました。



使い方は多彩 タブレット端末

※タブレット端末には、学習支援アプリがインストールされ、子どもの学びを支援しています。端末を持ち帰ることで、家庭学習で使用しているほか、オンラインでも授業に参加できます。

オンラインで海外や遠方の学校と交流したり、国際理解に役立てたり、普段には関われない方々と一緒に学んだりしています。また、自分の考えをタブレットで表現して、グループで共有し、意見交換をしています。

理科の観察や実験の記録で使い、グラフや表を作成し、考察をじっくり行うことで、学びを深めています。また、タブレットで個人やグループの情報を共有しながら学習を進めるなど、学習内容に合わせて多様な学習形態を選択して学んでいます。

